

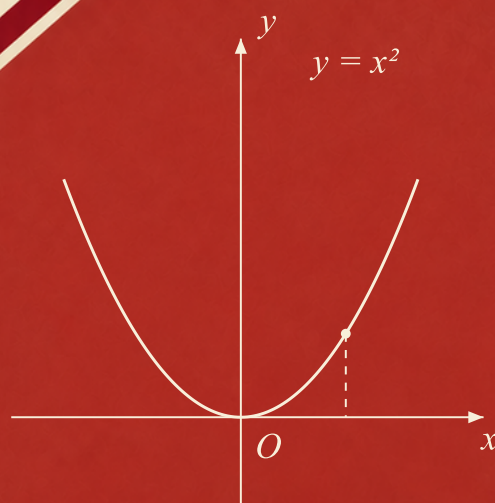
名古屋大学

文系（前期）

数学

過去問10年

2017-2026



問題編

年度別収録・別冊解答

株式会社Fermion 編

大学入試過去問シリーズ

名古屋大学

文系数学

2017～2026 年度 前期日程

問題編



はじめに

本書は、名古屋大学の前期日程に出題された文系数学を収録した問題編です。2017～2026 年度のうち、収録年度一覧に示す 10 年度を新しい順に掲載しています。

各年度の問題を、文理区分と出題番号を保って掲載しています。解答・解説は同じ年度構成の解答編に収録しています。



本書の使い方

一年度を通して解くときは、出題当時の試験時間と選択条件を原問題冊子で確認してください。解き直しは分野索引から該当問題を探せます。



収録年度・問題

年度	問題	ページ
2026 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	1
2025 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	4
2024 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	7
2023 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	10
2022 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	13
2021 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	16
2020 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	19
2019 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	22
2018 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	25
2017 年度	第 1 問、第 2 問、第 3 問	28
分野索引		31



2026 年度 名古屋大学・文系 第 1 問

【数学（文系）第 1 問】〈2026 年度・前期日程〉

正の実数 p に対して、 xy 平面において $y = x^2 + p$ で定まる放物線を Q とする。 a を実数とし、点 $A(a, a^2)$ から Q に引いた 2 本の接線の接点を $B(b, b^2 + p)$, $C(c, c^2 + p)$ (ただし $b < c$) とする。また $\theta = \angle CAB$ (ただし $0 < \theta < \pi$) とおく。このとき、以下の問いに答えよ。

(1) b, c を p, a を用いて表せ。

(2) $\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき、 p を a を用いて表せ。

(3) $\theta \neq \frac{\pi}{2}$ のとき、 $\tan \theta$ を p, a を用いて表せ。

(4) $\theta \geq \frac{\pi}{3}$ がすべての実数 a に対して成り立つための、 p の範囲を求めよ。



2026 年度 名古屋大学・文系 第 2 問

【数学（文系）第 2 問】〈2026 年度・前期日程〉

整数の組 (a, b, c) に対して、次の条件 $(*)$ を考える。

- $(*)$ a, b, c は 1 以上の整数であり、 a と b の最大公約数、 a と c の最大公約数、 b と c の最大公約数はそれぞれ 1 である。

以下の問いに答えよ。ただし、組 (a, b, c) と (d, e, f) は $a = d, b = e, c = f$ のとき、かつこのときに限り等しい。

- (1) 条件 $(*)$ かつ $abc = 120$ をみたす組 (a, b, c) のうちで、 $a \leq b \leq c$ をみたすものをすべて求めよ。
- (2) 条件 $(*)$ かつ $abc = 120$ をみたす組 (a, b, c) の個数を求めよ。
- (3) N を 2 以上の整数とし、 N 以下の素数の個数を m とする。条件 $(*)$ かつ $abc = N!$ をみたす組 (a, b, c) の個数を m を用いて表せ。